

## 公園は原始的な自然と 人々の営みが息づいている



今議会の質問としてとりわけ、公園の管理について、しっかりと質問しました。都市公園は市町村が管理していますが、国立公園は環境省が管理しています。

しかしながら、国が全てを行っているのではなく、国立公園に指定された地域の暮らしに携わっている都

道府県や市町村などの自治体、民間の事業者、さらには住んでいる方々と協力して管理運営しています。

### 地域社会や将来世代に何を引き継いでいくのか

地域の暮らしや産業は、地域の自然や生物多様性に支えられてきました。その価値を見直すことは、地域の持つ資源や新たな地域づくりを考えることにつながると考えます。

### サステナブルに経済を循環させていく

公園は美しい風景や生物多様性を守っています。それを多くの方が見て、その素晴らしさに感動し、それを守っていくことの意義を感じる事が大切です。

風景を見るだけでなく、自然を体験し、歴史や文化に触れて、感動が得られるようアップデートを考えると、その地域の魅力を感じてもらうことで、そこを訪問することが増え、経済が潤います。

### 自然と移ろいを感じるまちに

これまで環境は、経済と対立的に捉えられてきました。しかし、今は環境を契機に経済社会を変えていく時代で、それがSDGsの目指しているところだと考えます。地域経済と公園、そして、生物多様性の保全をセットで取り組んでいくことが重要です。

そのような観点から、公園施設に限らず、観光施設、生涯教育施設や社会教育施設の在り方を、考えていきたいと思えます。



工事中の岩田池公園

## 教育方針より

### 「教師が教える」から「子どもが学ぶ」

私は、昨年11月に富山市立芝園小学校へ視察に行き、東京学芸大学の高橋純教授の講演と、大浜先生の公開授業を視察しました。高橋教授は、教員のICT活用によるわかりやすい授業づくりに関する研究等情報活用能力育成のための指導法に関する研究をされています。そうした指導の下、「食料自給率に挑め、私たちはどう生きるのか」を参観した次第です。その授業は、輸入による外国との関わり、食の安全・安心への取り組み等、資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食糧生産の課題を理解していくというものでした。大人が考えても難しい問題を、子どもが懸命に考え、先生が汗をかき指導している姿は、非常に印象的でした。このような教育を次年度から津市でも初めて行くと、答弁がありました。



### 学校のバリアフリー化を急ぐ

子どもたちが安全で快適に学ぶための施設整備を進めていくことは、学校教育の充実につながります。

令和7年度においては、栗真小、豊が丘小、桃園小、千里ヶ丘小、東観中学校の5校の工事を実施。南立誠小、立成小の設計を行い、西郊中学校にエレベーターを設置します。しかしながら、他の学校にはそのような施設整備の計画はありません。いかがなことが質問しました。

### 社会教育・生涯教育の地域格差解消に向けて

公民館については津市に49館ありますが、その既存の公民館には施設整備予算が施され、講座等の事業予算がついています。人づくりや地域づくりにつながるような学習活動を進めると、書いています。

公民館が、ないところはどうか。また、図書館について、利用環境の充実と言っていますが、その具体策が乏しいのではないかと感じます。

社会活動や経済活動、学びの変遷、物事の多様化、こんなに時代が変わっているのに、これらの施設が変わらないのはなぜか、質問しました。